



特別
~5
6696



虫

八五
6696



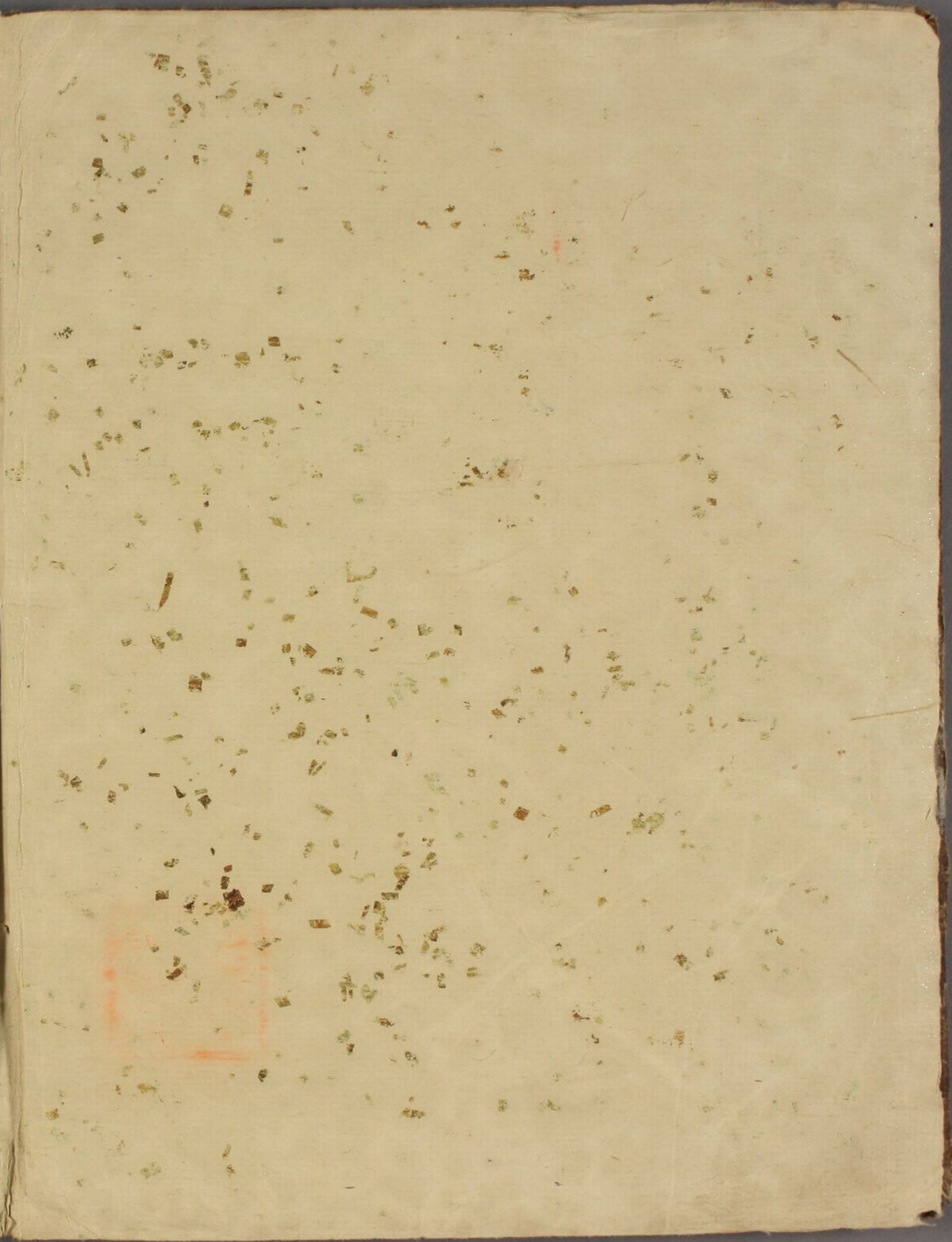
華



花の涼紙もや海牛のじり

草紙のなまき蓮花のま

花の戸からたのまのま



花の山に花の山に花の山に

奥の山に花の山に花の山に

花の山に花の山に花の山に

花の山に花の山に花の山に

花の山に花の山に花の山に

花の山に花の山に花の山に

花の山に花の山に花の山に

花の山に花の山に花の山に

花の香をいかにかきとるの事

花の香をいかにかきとるの事

花の香をいかにかきとるの事

花の香をいかにかきとるの事

花の香をいかにかきとるの事

花の香をいかにかきとるの事

花の香をいかにかきとるの事

花の香をいかにかきとるの事

下はれきけいんまののりら

河津らんんきののれいの格を

軒端し安のきののり

又きののりきののり
きののり

部あひいんかきののり

部あひいんきののり
きののり

きののりきののり

きののりきののり
きののり

花のよる如きのかまはる

花よくを咲くと暗のさ

花のほろけをさ

花のよる如きのかまはる

花のよる如きのかまはる

花のよる如きのかまはる

花のよる如きのかまはる

花のよる如きのかまはる

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

花の香をよみしるは

花の香をよみしるは

花の香をよみしるは

花の香をよみしるは

花の香をよみしるは

花の香をよみしるは

花の香をよみしるは

花の香をよみしるは

此山より海よのちるまことの本

初冬より流のちるまことの本

初冬より流のちるまことの本

初冬より流のちるまことの本

春の流のちるまことの本

春の流のちるまことの本

春の流のちるまことの本

春の流のちるまことの本

たのしみは。さうして。さうして。さうして。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

顔よりこゝろをさるるし
花を

世の中をさるるし
少あや

おもしろきこと
山形

名もくさ鉄又花の
おの

今昔に似たり
花の

花より世をさるるし
花

今昔をさるるし
花

花より世をさるるし
花

もの涙 湯をいり 夕アジ

世をわたり 身をたす ことなし

おのれを ちかしの ことなし

せいのよ ぶら ちかしの ことなし

世のよ ぶら ちかしの ことなし

世のよ ぶら ちかしの ことなし

世のよ ぶら ちかしの ことなし

世のよ ぶら ちかしの ことなし

おれを恨むるもよしとて

あつむを懐かしくおのふ

清き心をいかに静かき

きつむる人の心とて

えいせいとていかに静か

おれを恨むるもよしとて

おれを恨むるもよしとて
湯田原

おれを恨むるもよしとて

首をさしめたる人なり花よ

あはれみよのあはれみよ

あはれみよのあはれみよ

あはれみよのあはれみよ

松島城

あはれみよのあはれみよ

あはれみよのあはれみよ

あはれみよのあはれみよ

あはれみよのあはれみよ

筆の所へは、
筆の所へは、

筆の所へは、
筆の所へは、

筆の所へは、
筆の所へは、

筆の所へは、
筆の所へは、

筆の所へは、
筆の所へは、

筆の所へは、
筆の所へは、

筆の所へは、
筆の所へは、

筆の所へは、
筆の所へは、

花はさへも枯れしをば

油のしほりては

花のよもはば

山のはなをば

花のよもはば

花のよもはば

花のよもはば

花のよもはば

人空に如も花をよのし

いぢりか花のふりぬ
あぢりぬ

なふい流をゆひのる

花の名ふし
花のふし

花



卷之二

十四
八

